



EPA介護福祉士候補者 受入れ事例発表

社会福祉法人北野会

人財開発研究室 チーフ

石塚勇次

施設紹介



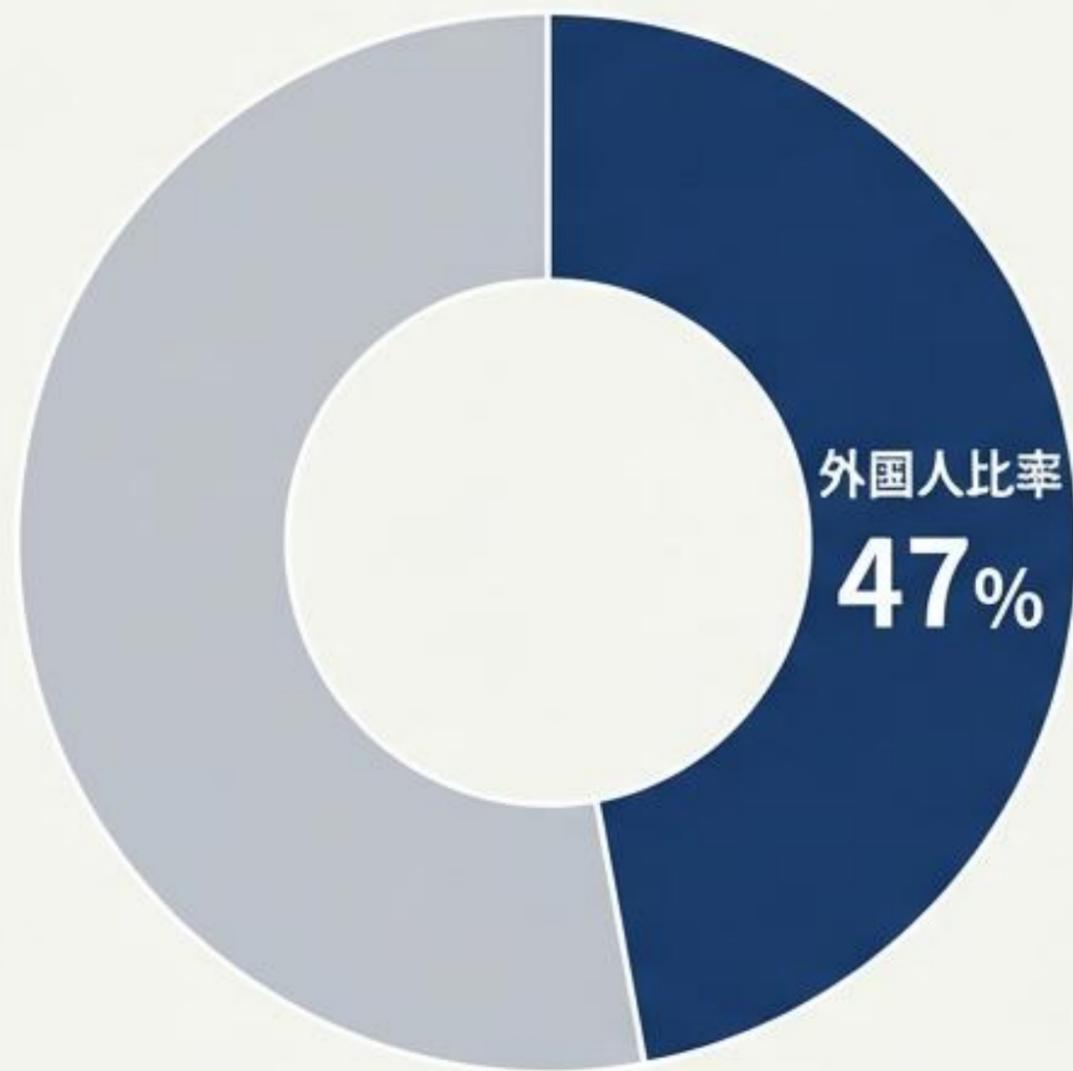
Access & Scale

東京都板橋区徳丸3-32-28

池袋から電車で15分に位置する住宅街の中にある施設です。

 当法人は1施設7事業を運営。

まずはじめに、外国籍職員を受入れし、当法人は「大満足」



現在の受入人員

特養 介護職員 42名 (内 外国籍職員 20名)

- EPA介護福祉士：1名
- EPA介護福祉士候補者：9名
- 在留資格「介護」：3名 (内、元EPA候補者 2名)
- 特定技能：5名
- その他 (「留学」「定住者」)：2名

デイサービス：10名中 **5**名が外国籍

グループホーム：9名中 **2**名が外国籍

EPA受入れの背景

2018年

外国籍職員の受け入れを検討。
当時は外国籍職員は0名。

The Motivation

将来直面するであろう人員不足に備え、早めに外国籍職員の受け入れ体制を整えたいと考え、受け入れを計画。

Result

外国籍職員の受け入れルートは多い中、制度としてしっかりとしているEPAを受け入れルートに選択。

EPA受入れの為の体制

外国籍職員の受入れ計画は初の試み ⇒ 不安。すでにEPAを受入れている近隣の施設があり、相談し、教えていただいた。 **専属の担当職員を配置**

生活支援 (Living Support)

-  マッチング後の候補者の入職前サポート、家の準備
-  在留資格の管理、役所手続き
-  携帯電話や水光熱の契約補助
-  日々の生活トラブル対応



勉強支援 (Study Support)

-  入職時研修、勉強会の実施（日本語勉強、介護福祉士試験対策）
-  介護業務研修、申し送り練習
-  法人内日本語テストの実施、定期面談



勉強スケジュール：1年目

 月に4回、業務内での勉強の日を設定

	法人内勉強会（月2回）	外部日本語学校（月2回）
午前 (Morning)	 法人職員担当 JLPT（日本語検定） 合格を目指す日本語勉強 	 日本語学校へ通学 JLPT（日本語検定） 合格を目指す日本語勉強 
午後 (Afternoon)	 外部日本語講師 JLPT（日本語検定） 合格を目指す日本語勉強 	

介護福祉士の試験の合否は日本語の読解力に大きく左右されるため、1年目の日本語勉強でどこまで基礎を作れるかをポイントと考えます。

勉強スケジュール（2年目）

この年から日本語学校では介護福祉士試験に向けた授業をスタート。
法人内の勉強では、現場で使う申し送り表や伝達資料を使い、日々の業務と介護の言葉を結び合わせながら学んでいきます。

	法人内勉強会（月2回）	外部日本語学校（月2回）
午前 (Morning)	 法人職員担当 現場の帳票を活用した介護基礎勉強	 日本語学校へ通学 国家試験に向け、分野ごとの授業を開始
午後 (Afternoon)	 外部日本語講師 通学授業を深める授業	

- ・実務と直結した実践的な語学の習得を目指します
- ・現場で普段聞きながらも、理解しきれていない言葉の解釈を正していきます。

勉強スケジュール：3年目（受験対策）

最終年は出来る限り多くの問題を解き、解説で知識を深めていく。

	法人内勉強会（月2回）	外部日本語学校（月2回）
午前 (Morning)	 法人職員担当 過去問を活用した勉強会	 日本語学校へ通学 国家試験に 向け、勉強の継続、模試の実施
午後 (Afternoon)	 外部日本語講師 通学授業を深める授業	

- 問題を解き、弱点の把握、克服を目指す
- 試験直前でメンタル面のバランスも乱れがちになるので注意

受け入れ体制②【日本人と外国人 どちらも大切】

施設の設備、道具、書類などに振り仮名などの準備は一切なし（No Furigana Policy）

日本人スタッフの視点
(Japanese Staff Perspective, Anxiety)

「変化が大きくなることにストレスを感じる」

外国人スタッフの視点
(Foreign Staff Perspective, Reality, Positive)

「トレーナーのサポートでリスク軽減」
「日本語（漢字）に多く接することで習得に繋がる」

現場前研修

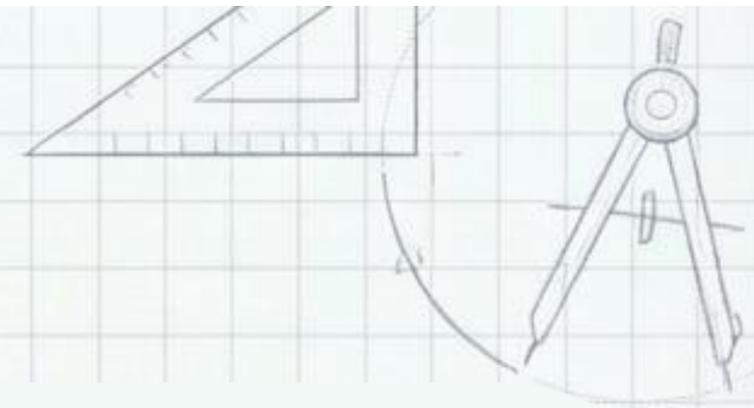
内容は日本人と同じだが、
期間は1.5～2倍の長さで実施。



コミュニケーション

職員同士は基本日本語。
スマホ携帯OK（翻訳環境）。

メンタルフォローとルールの徹底



コミュニケーションの注意点



魔法の言葉「大丈夫」はNGワード。



OKか No Thank you かを明確に。



「わかりました」は要注意（理解の確認が必要）。

長期休暇に関するルール作りと徹底

長期休暇（一時帰国）に関してはルール作りをして、徹底することの重要性

【事例】マイライフ徳丸の例

	項目	内容
	回数・期間	長期休暇（2週間以上）は年に一人一回まで。
	取得タイミング	同じフロアで同じタイミングの長期休暇取得は不可。
	休暇の仕組み	長期休暇分の休みは月々の公休の数調整をし、有給を使用しなくても長期休暇をとれる仕組みに。
	背景・理由	⇒長期休暇に有給を使用すると、長期休暇を取得しない日本人より不公平の訴えが。
	有休の調整	有休は月々のシフトで取得率が公平になるように調整。
	職員の反応	外国籍職員もフェアな休みの取り方には賛同してくれる。

EPA受入れのメリット



優秀な人材の確保（4年はほぼ確約）



制度がしっかりしている（助成金の活用）



仕事に真摯に取り組む方が多い



日本人職員へ文化交流の機会を作りやすい

フィリピンの遊びも取り入れた、合同研修



施設内忘年会はフィリピン料理を作ってくれ、大好評。



EPA受入れの課題



言語コミュニケーション

翻訳ツールが発達しても、
ご利用者とは
日本語での会話が必須。



同一国受入れによる障壁

Pros

- 精神的安定、
教育進捗の加速化、
先輩のサポート。

Cons

- 日本語の習得は
緩やかになる傾向。

受入れ初期は精神的な不安の軽減に注力し、
日本を楽しんでもらうことを優先。

日本の観光地を案内したり、食事会を開催



今後の展開・現在の受入れ状況

Year/Cohort	Details	Outcome/Status
2019年度生 (フィリピン)	受入れ: 2名 -> 合格者 2名	A: 在留資格「介護」に変更し、就労中 B: 家族を来日させ、転職
2020&2021年度生 (フィリピン)	受入れ: 4名 -> 合格者 3名	C: EPA介護福祉士として就労中 D: 結婚し、転職 E: 西日本へ転職 F: 滞在延長し、今年度も受験
2022年度生 (フィリピン)	4名 受験	(自己採点の結果は合格予定2名)
2024/25年度生	フィリピン2名、インドネシア2名	介護福祉士候補者として就労中

合格後の自由な選択とキャリア形成

✓ 試験合格

選択肢の拡大

- 🏠 転居
- 👜 転職
- 💍 結婚
- 👨👩👧👦 家族呼び寄せ

横の繋がりが深い（紹介入職もあれば、離職もある）

先輩職員としての芽生え

📈 キャリア形成

🏆 役職者を目指す

👥 後輩へのトレーニング



最後に

**最初にお伝えした通り、当法人は外国籍職員を受
入れし、満足しています。
それは外国籍職員の方々の優秀さや真面目さを知
ったから。**

**日本語や文化の違いに当初は戸惑ったこともありました。
そんな時は、ぜひ近くの施設に頼ってみてください。外国
人も担当者もきっと楽になると思います。**

ご清聴ありがとうございました

